

日本人中国語学習者の謝罪言語行動における誤用

—教員に対する発話を例として

Misuses of Apologizing Expressions by Japanese students of the Chinese Language

温 琳
WEN Lin

提要 “抱歉”、“对不起”、“不好意思”都是现代汉语中比较常见的表示道歉的表达。关于它们三者之间的异同已有很多的论著。然而从日本汉语学习者角度出发的研究却几乎为零，从而导致日本汉语学习者无法正确区分和运用汉语中的这些道歉表达。本文通过进行问卷调查的方式来调查日本汉语学习者和汉语母语者如何区别使用“抱歉”、“对不起”和“不好意思”，并通过解析汉语母语者在向教师道歉时使用的表达及方式推导出在对方是长辈、上司时更为恰当的道歉表达及方式。在结尾部分，笔者将提出汉语道歉表达更为有效的教学法以供参考。

キーワード：謝罪表現 定型表現 非定型表現 学生 教員

目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 調査概要
4. 謝罪言語行動における日中対照
5. 考察
6. おわりに

1. はじめに

学生が筆者に謝罪する際、よく“老师，不好意思，我今天起晚了”、“不好意思，我忘带（作业）了”といった表現を用いる。筆者はこれらの発話に三つの違和感を抱いた。(1) 教員に対して謝罪する表現として“不好意思”は適切か。(2) 謝罪表現を発話する前に、“老

師”という呼びかけ表現が必要なのではないか。(3)謝罪の表現が単調で誠意を感じない。

このような謝罪のしかたが日本人中国語学習者の間で定着すると、実際のコミュニケーションに支障をきたしかねない。本稿は中国語を母語とする学生と日本人中国語学習者¹⁾に対して質問紙調査を実施し、まず中国語母語話者が教員に対して謝罪する際、実際にはどのような表現をどのような割合で使用するかを明らかにする。そのうえで、日本人中国語学習者のデータと比較することによって、日本人中国語学習者が中国語を用いて謝罪言語行動を行う際の問題点を洗い出す。そして謝罪言語行動により有効なストラテジーを提示する。

2. 先行研究

ここで中国語の謝罪表現に関する先行研究について触れておく。中国語の謝罪表現に関する先行研究は、三つのタイプに分けることができる。(1)意味論、語用論の手法を用いた謝罪表現研究(彭国躍(2003)、彭国躍(2005)、陶琳(2007))、(2)日本語の謝罪表現との対照研究(高橋優子(2012)、趙翻(2012)、趙翻(2014))、(3)“对不起”、“不好意思”、“抱歉”の使用状況を調査し、“不好意思”が“抱歉”、“对不起”と置き換え可能か否かを検証した研究(関英明(2014)、石楠楠・李柏令(2015))である。なお、(3)の研究は中国人研究者によるものが多い。

彭国躍(2005)では九つの場面を設定し、中国人大学生を対象に質問紙調査を行った結果、三つある中国語の謝罪明示表現²⁾“对不起”、“不好意思”、“抱歉”のうち、“对不起”が圧倒的に多く使用され、謝罪明示表現の中で最も汎用性が高いことが分かった。一方、“不好意思”は相手への加害事実はないが、相手との間に利益不均衡が生じた場面においても使用される。また、“不好意思”が同年代の相手に対して比較的多く使用されるのに対して、“抱歉”は身内以外の目上(先生)に多く使用される傾向にあることも明らかになった。また、暗示型謝罪発話表現³⁾を六つのタイプに分類し分析しており、暗示型謝罪発話表現を明示型謝罪表現と共に使うことにより、謝罪意図を補強できると指摘している。

陶琳(2007)では中国語の謝罪表現を24の意味類型に分類し、その意味類型の概念を用いて中国語の台本を分析した結果、謝罪表現には様々な意味類型が用いられていること、第一発話として“呼称付与”の意味類型が優先され、次には“責任認識”、“詫び表現”、“説明・弁明”といった意味類型が高い確率で使用されることが確認された。この研究結果は“呼称付与を使用しなければ失礼にあたるという危険性が存在する”(興水優(1977))を裏付けた形となり、謝罪表現を用いる際の一つの指針である。

趙翻(2012)は過失の程度と謝罪相手により、六つの場面を設定し、日本人大学生

と中国人大学生の対照研究を行った。ここでは本稿と関連のある中国人大学生のデータのみ注目する。謝罪の定型表現⁴⁾については、“对不起”の使用が最も多く、特に中度や重度の場合に多く現れることに対して、“不好意思”は軽度の場合に多く使われる傾向があること、“抱歉”は全体的に使用率が低いことが分かった。謝罪の非定型表現について、「事実認め」が最も多く使用されたが、その次は「呼びかけ」、「対策／提案」、「感動詞」の順に使用頻度が高かった。ただ、課題もある。趙翻（2012）が設定した場面は軽度、中度、重度に分ける基準が示されておらず、場面設定の基準に曖昧さが残る。

これらの先行研究を踏まえ、本稿は教員に対して謝罪する場面での日本人中国語学習者と中国語母語話者の謝罪言語行動を考察する。

3. 調査概要

本研究は主に談話完成テスト（DCT）に基づく言語使用の意識調査法を用いる。日本人中国語学習者と中国語母語話者を対象とした、質問紙調査によって日本人中国語学習者と中国語母語話者が教員に対して用いる謝罪表現の使用状況を調査し、中国語の謝罪表現である“对不起”、“不好意思”、“抱歉”の使用分布を明らかにする。そして、教員に対する謝罪という特定の謝罪場面において三つの謝罪表現の適切性を検証し、インターアクションにおいてどの表現がより好ましいかを究明する。

調査地点は、中国北部にある山西省大同市第一中学（中高一貫校）及び大同大学、筆者が勤務している日本の大学である。被験者は、山西省大同市の中学生（20名）、高校生（20名）、大学生（20名）計60名、筆者の勤務する大学の中国語学科の1年生（18名）、2年生（13名）、3年生（14名）、計45名である。実施時期は2019年9月～10月である。

場面は学校生活において経験したことがあるか、あるいは実際経験していなくても想像しやすい場面を設定した。具体的な質問内容及び場面設定は以下の通りである。

表1 場面設定

“以下の場面であなとは何と発話しますか。あなたが言う言葉をそのまま書いてください。また、そのように発話する時に行う可能性がある態度や身振りがあれば、具体的に記入してください”
場面1 朝寝坊して、授業に10分くらい遅刻しました。先生に何と言いますか。
場面2 先生が宿題を集めに目の前に来た時、あなたは宿題を家に忘れたことに気づきました。先生に何と言いますか。
場面3 バス（電車）の遅延、又は車の渋滞で授業に10分くらい遅刻しました。この時、先生に何と言いますか。

分析に際しては、謝罪表現を定型表現と非定型表現に分け、更に前者を“对不起”、“不

好意思”、“抱歉”の三つ、後者を「呼びかけ」、「対策／提案」、「事実認め」、「程度副詞」、「理由／言い訳」、「再発防止の約束」、「過ちの認め」、「自責」、「許しを乞う」、「気遣い」、「その他」の十一項目⁵⁾に分けた。

4. 中国語謝罪言語行動における比較分析

4.1 場面1（朝寝坊して、授業に10分くらい遅刻しました。先生に何と言いますか。）

表2 場面1の統計

定型表現		日本人中国語学習者	中国語母語話者
	对不起	34 (75%)	30 (63%)
	不好意思	8 (17%)	8 (17%)
	抱歉	1 (2%)	11 (23%)
合 計		43 (95%)	49 (104%)
非定型表現	呼びかけ	10 (22%)	40 (85%)
	対策／提案	0 (0%)	6 (12%)
	程度副詞	2 (4%)	8 (16%)
	理由／言い訳	19 (42%)	40 (85%)
	事実認め	15 (33%)	17 (36%)
	再発防止の約束	1 (2%)	29 (61%)
	過ちの認め	0 (0%)	1 (2%)
	自責	0 (0%)	7 (14%)
	許しを乞う	0 (0%)	6 (12%)
	気遣い	0 (0%)	0 (0%)
	その他	0 (0%)	0 (0%)
合 計		47 (104%)	154 (327%)

表2⁶⁾は場面1をまとめたものである。有効回答数は、日本人中国語学習者45、中国語母語話者47である。

まず定型表現についてである。場面1において、日本人中国語学習者は定型表現を多用しており、43例(95%)の使用が確認された。一方、中国語母語話者は被験者全員が定型表現を使用しており、49例(104%)の使用が確認できた。使用率が100%を超えているのは、“对不起, ……; 实在抱歉, ……”(中国人大学生)と“不好意思, ……; 对不起。”(中国中学生)のように、定型表現を複数使用すると回答した者がいたためである。

次に非定型表現の使用についてである。日本人中国語学習者の回答からは、「理由／言い訳19例(42%)」、「事実認め15例(33%)」、「呼びかけ10例(22%)」、「程度副詞2例(4%)」、「再発防止の約束1例(2%)」の使用が確認できた。この結果から、日本人中国語学習者が

使用する非定型ストラテジーの9割以上を「理由／言い訳」、「事実認め」、「呼びかけ」が占めていることが分かる。「程度副詞」、「再発防止の約束」の使用率は極めて低く、その他のストラテジーに至っては全く使用されていなかった。

一方、中国語母語話者の回答では「呼びかけ 40 例 (85%)」、「理由／言い訳 40 例 (85%)」、「再発防止の約束 29 例 (61%)」、「事実認め 17 例 (36%)」、「程度副詞 8 例 (16%)」、「自責 7 例 (14%)」、「許しを乞う 6 例 (12%)」、「対策／提案 6 例 (12%)」、「過ちの認め 1 例 (2%)」の使用が確認できた。さらに、「呼びかけ」と「理由／言い訳」の使用率が同じで、そのうちの約8割の回答者がこの二つのストラテジーを併用していた。

中国語母語話者が「呼びかけ」＋「理由／言い訳」を多用していることから、場面1においては、この二つの非定型表現の併用が有効であることが分かる。「再発防止の約束」は日本人中国語学習者では1例(2%)しか現れなかったが、中国語母語話者では29例(61%)に達した。また、「自責」、「許しを乞う」については、日本人中国語学習者では現れなかったが、中国語母語話者ではそれぞれ7例(14%)、6例(12%)となっている。中国語母語話者による非定型表現の使用率は非常に高く、合計が154例(327%)となっていることから、平均すると一人の回答者が3つ以上の非定型表現を併用していることが分かる。このことは注目に値する。

中国語母語話者が使用した非定型表現のうち、日本人中国語学習者では使用が確認できなかったものは以下の通りである。「対策／提案」“如再遇到此情况，一定会提前请假，告知老师我的情况。”(中学生)、「過ち認め」“我深深认识到自己的错误。”(高校生)、「自責」“给您添麻烦了。”(高校生)、「打扰您和同学们了。”(高校生)、“耽误您上课了。”(大学生)、「許しを乞う」“请您原谅我。”(高校生)

また、「程度副詞」では、中国語母語話者は日本人中国語学習者が使用した“真”と“很”のほか、“非常”、“十分”を使用していた。実際に使用された表現は“非常抱歉”(中学生、高校生)、“十分抱歉”(大学生)である。

4.2 場面2 (先生が宿題を集めに目の前に来た時、あなたは宿題を家に忘れたことに気づきました。先生に何と言いますか。)

表3 場面2の統計

定型表現		日本人中国語学習者	中国語母語話者
	对不起	30 (66%)	14 (29%)
	不好意思	8 (17%)	9 (19%)
	抱歉	1 (2%)	3 (6%)
合 計		39 (86%)	26 (55%)

非定型表現	呼びかけ	7 (15%)	43 (91%)
	対策／提案	19 (42%)	33 (70%)
	程度副詞	2 (4%)	5 (10%)
	理由／言い訳	3 (6%)	20 (42%)
	事実認め	23 (51%)	42 (89%)
	再発防止の約束	2 (4%)	6 (12%)
	過ちの認め	0 (0%)	1 (2%)
	自責	0 (0%)	3 (6%)
	許しを乞う	0 (0%)	1 (2%)
	気遣い	0 (0%)	1 (2%)
	その他	0 (0%)	0 (0%)
合 計	53 (118%)	155 (330%)	

表3は場面2をまとめたものである。有効回答数は、日本人中国語学習者45、中国語母語話者47である。

場面2において使用された定型表現は、日本人中国語学習者39例(86%)、中国語母語話者26例(55%)だった。中国語母語話者による定型表現の使用率がやや低めではあるが、約6割の被験者が定型表現を使用していることが分かる。

次に非定型表現についてである。日本人中国語学習者の回答では、「事実認め23例(51%)」、「対策／提案19例(42%)」、「呼びかけ7例(15%)」、「理由／言い訳3例(6%)」、「程度副詞2例(4%)」、「再発防止の約束2例(4%)」が確認された。一方、中国語母語話者の回答では、「呼びかけ43例(91%)」、「事実認め42例(89%)」、「対策／提案33例(70%)」、「理由／言い訳20例(42%)」、「再発防止の約束6例(12%)」、「程度副詞5例(10%)」、「自責3例(6%)」、「許しを乞う1例(2%)」、「過ちの認め1例(2%)」、「気遣い1例(2%)」が確認された。

場面2においても中国語母語話者による「呼びかけ」の使用率は非常に高く、9割以上の回答者が「呼びかけ」である“老师”を使用した。また、約9割の回答者が「事実認め」を使用し、7割の回答者が「対策／提案」を使用した。「理由／言い訳」は、日本人中国語学習者の使用が6%だったのに対し、中国語母語話者の使用は42%にのぼっていた。このことから、「理由／言い訳」ストラテジーの使用は、日本人中国語学習者と中国語母語話者の間で大きな差があることが分かる。加えて、場面2では中国語母語話者による非定型表現の使用率は非常に高く、合計が155例(330%)となっていることから、平均すると一人の回答者が3つ以上の非定型表現を併用していることが分かる。

この場面において中国語母語話者による定型表現の使用はやや少なかった。このことから、中国語母語話者が場面2では、「呼びかけ」+「事実認め」、または「対策／提案」または「理由／言い訳」等のストラテジーを用いることによって、謝罪言語行動を遂行できると考えていることが分かる。

中国語母語話者が使用した非定型表現のうち、日本人中国語学習者では使用が確認できなかったものは以下の通りである。「過ちの認め」「我错了。」(高校生)、「自責」「(我)实在太粗心大意了。」(大学生)、「許しを乞う」「请老师谅解。」(大学生)、「気遣い」「不会让您失望。」(中学生)。

「程度副詞」では、中国語母語話者が“很”以外に、“实在”、“十分”を使用していた。具体的な表現は“实在不好意思”(中学生)、“十分抱歉”(大学生)である。

4.3 場面3 (バス(電車)の遅延、又は車の渋滞で授業に10分くらい遅刻しました。この時、先生に何と言いますか。)

表4 場面3の統計

定型表現		日本人中国語学習者	中国語母語話者
	对不起	29 (64%)	31 (64%)
	不好意思	11 (24%)	10 (20%)
	抱歉	1 (2%)	7 (14%)
合 計		41 (91%)	48 (100%)
非定型表現		日本人中国語学習者	中国語母語話者
	呼びかけ	5 (11%)	41 (85%)
	対策／提案	1 (2%)	28 (62%)
	程度副詞	1 (2%)	8 (17%)
	理由／言い訳	26 (57%)	42 (87%)
	事実認め	14 (31%)	34 (71%)
	再発防止の約束	1 (2%)	12 (25%)
	過ちの認め	0 (0%)	1 (2%)
	自責	0 (0%)	2 (4%)
	許しを乞う	0 (0%)	7 (14%)
	気遣い	0 (0%)	0 (0%)
	その他	4 (8%)	0 (0%)
合 計		52 (116%)	175 (365%)

表4は場面3をまとめたものである。有効回答数は、日本人中国語学習者45、中国語母語話者48である。

場面3で使用された定型表現は、日本人中国語学習者41例(91%)、中国語母語話者48

例(100%)だった。このことから、中国人回答者の全員が定型表現を使用したことが分かる。

次に、非定型表現についてである。日本人中国語学習者の回答では、「理由／言い訳 26例(57%)」、「事実認め 14例(31%)」、「呼びかけ 5例(11%)」、「その他 4例(8%)」、「対策／提案 1例(2%)」、「程度副詞 1例(2%)」、「再発防止の約束 1例(2%)」が確認された。他の非定型表現と比べ、「理由／言い訳」が非常に高い割合で使用されているが、その原因は質問紙にあらかじめ中国語で理由が提示されていたからだとも考えられる。

一方、中国語母語話者の回答では、「理由／言い訳 42例(87%)」、「呼びかけ 41例(85%)」、「事実認め 34例(71%)」、「対策／提案 28例(62%)」、「再発防止の約束 12例(25%)」、「程度副詞 8例(17%)」、「許しを乞う 7例(14%)」、「自責 2例(4%)」、「過ちの認め 1例(2%)」が確認された。加えて、「呼びかけ」と「理由／言い訳」を使用すると回答した中国語母語話者が同程度いることから、この2つを併用すると意識している学生が多いことが分かる。そして、「対策／提案」ストラテジーについては、日本人中国語学習者の使用が 1例(2%)にとどまったのに対して、中国語母語話者の使用は 28例(62%)にのぼった。

中国語母語話者が使用した非定型表現のうち、日本人中国語学習者では使用が確認できなかったものは以下の通りである。「過ちの認め」“我很愧疚。”(高校生)、「自責」“因为个人的疏忽。”(大学生)、“我没有安排好时间。”(大学生)、「許しを乞う」“望您谅解。”(高校生)、“请您原谅我。”(高校生)。

「程度副詞」では、中国語母語話者が“很”以外にも、“非常”、“十分”、“真的”、“太”を使用していた。具体的な表現は、“十分抱歉”(中学生)、“太不好意思了”(高校生)、“非常抱歉”、“非常不好意思”、“真的对不起”(大学生)である。また、日本人中国語学習者の使用が確認された、非定型表現「その他」は、すべて日本公共交通機関の遅延証明書に関するもので、中国語母語話者による使用は確認できなかった。

5. 考察

表2、表3、表4を見れば分かるように、本調査は教員に対する会話という限定された場面を対象としたものだが、定型表現では中国語母語話者が全ての場面で“对不起”を最も多く使用していること、僅かではあるが“抱歉”も使用していることが分かった。また、中国語母語話者が非定型表現を多用している結果から中国人は非定型表現を定型表現と共に使うことにより、謝罪意図を補強することができるという意識を持っていることが分かった。今回の質問紙調査において中国語母語話者が定型表現＋非定型表現(＋非定型表現

+非定型表現)の形式を多用しているのもそのためだと考えられる。これは彭国躍(2003、2005)を裏付ける結果となった。また、(日本語母話者と比べ)中国語母話者は“謝らない”のではなく、規範とする定型表現による謝り方は少ないものの、さまざまな非定型表現を使用して謝っているという趙翻(2014)の指摘とも一致している。

日本人中国語学習者と比較してみると、三つの場面において中国語母話者による定型表現の使用に差があったのに対して、日本人中国語学習者による使用率がほぼ同じ割合であることがわかった。これは中国語母話者が場面によって使用する定型表現をアレンジしているのに対して、謝罪ストラテジーの欠如により日本人中国語学習者が“对不起”をはじめとする定型表現を多用せざるを得ない実態を物語っている。また、全ての場面において、中国語母話者は日本人大学生に比べて非定型表現、特に「呼びかけ」を多用している。このことから、本稿の目的の一つである、中国語母話者が教員に対して謝罪表現を発話する場合、どの表現がより適切だと認識しているかという点については、以下のようによまとめることができる。つまり、定型表現では“对不起”と“抱歉”を選ぶ傾向があること、非定型表現では“呼びかけ”をはじめとする様々なストラテジーを駆使し、定型表現+非定型表現+非定型表現(+……)の形式で謝罪言語行動を遂行しているということである。

日本人中国語学習者の非定型表現使用については、それほど豊富ではないものの、一定の確率でストラテジーを使用していることが分かった。しかし、日本人中国語学習者が中国語母話者と比べて「呼びかけ」をあまり使用していない点を看過することはできない。陶琳(2007)が指摘しているように、中国語の謝罪言語行動において呼称付与を使用しないことは、相手に対して礼儀を欠く危険性がある。このことから中国語で謝罪言語行動を遂行する際、「呼びかけ」のストラテジーは必要なものであり、日本人中国語学習者に対して指導していかなければならないことが分かる。

また、日本人中国語学習者の謝罪言語行動は、中国語母話者に比べ、単調になる傾向がある。今回のアンケート調査では、中国語母話者が「定型表現」+「非定型表現1」+「非定型表現2」+「非定型表現3」で謝罪言語行動を遂行しているのに対して、日本人中国語学習者の謝罪言語行動は「定型表現」のみ、あるいは、「定型表現」+「非定型表現」で終わるケースが殆どだった。謝罪の目的は相手に許してもらい、自分のせいで害された相手の気持ちや人間関係を修復することにある。謝罪言語行動が単調過ぎると、謝罪が不十分となり、それにより謝罪言語行動を遂行する目的を達成しにくい、または達成できないといった結果、即ち、謝罪行動の失敗につながる可能性がある。場合によっては誠意のない謝罪と誤解されかねないため、人間関係をさらに悪化させる危険性すらある。

6. おわりに

ここまでの議論を踏まえ、中国語で目上に対して謝罪する際の公式を整理する。基本スタイルは定型表現＋非定型表現の併用である。定型表現は“对不起”または“抱歉”であり、非定型表現には「呼びかけ」、「事実認め」、「理由／言い訳」、「対策／提案」、「再発防止の約束」、「程度副詞」、「過ちの認め」、「気遣い」、「自責」、「許しを乞う」等がある。「程度副詞」は必ず定型表現の前に使用する。また、定型表現には“不好意思”という表現もあるが、慎重に取り扱う必要がある。判断しにくい場合、極力避けるのが無難である。非定型表現について、「呼びかけ」を最優先に使用する。式で表すと、次の式1になる。

式1 中国語での謝罪公式

中国語での謝罪＝「程度副詞」定型表現＋非定型表現1＋非定型表現2＋非定型表現3……
定型表現＝「对不起」or「抱歉」
非定型表現1＝「呼びかけ」
非定型表現2＝「理由／言い訳」／「事実認め」
非定型表現3＝「対策／提案」／「再発防止の約束」
非定型表現4＝「程度副詞」
非定型表現5＝「過ちの認め」／「気遣い」／「自責」／「許しを乞う」

謝罪表現の不当使用や謝罪ストラテジーの欠如が円滑なコミュニケーションを妨げ、場合によっては文化摩擦を誘発する要因にもなる。そのため、教育実践の場面では、運用に関する指導を十分に行う必要がある。

今回はアンケートという調査方法を用いて研究を進めたが、回答者の意図や心理などについては、今後、フォローアップインタビューなどを用いて明らかにしていきたい。

注

- 1) 本稿は事例分析である。本稿でいう日本人中国語学習者は麗澤大学の中国語学科の学生を指す。
- 2) 本稿の「定型表現」にあたる。
- 3) 本稿の「非定型表現」にあたる。
- 4) 定型表現について、森山卓郎（1992）では、「第一に、発話の目的は対人関係の修復にあるので文字通りの意味から離れた応答が可能である。第二に、意味的な特殊化である。第三に、量的頻用されるかどうかという問題なのであり、明確な境界線が引けるようなものではない」と指摘している。

5) 非定型表現の分類は彭国躍 (2005)、趙翻 (2012) を参照した。

6) 表 2、表 3、表 4 の数値は、使用されたストラテジーの数である。

参考文献

- 熊取谷哲夫 (1988) 「発話行為理論と談話行動から見た日本語の“詫び” と“感謝”」『広島大学教育学部紀要』第 2 部第 37 号、広島大学教育学部:223-234.
- 興水優 (1977) 「中国語における敬語」『岩波講座日本語敬語』、岩波書店:271-300.
- 高橋優子 (2012) 「これまでの日中の“謝罪” 表現研究の問題点と今後の課題」『文化外国語専門学校紀要』25、文化外国語専門学校:1-8.
- 中田智子 (1989) 「発話行為としての陳謝と感謝」『日本語教育』68、日本語教育学会:191-203.
- ネウストプニー (2003) 『朝倉日本語講座9 言語行動』朝倉書店.
- 森山卓郎 (1992) 「関係修復のコミュニケーション—現代日本語のお礼とお詫びの定型表現—」『藤森言葉の論集』、清文堂:270-292.
- 山梨正明 (1986) 『発話行為』大修館.
- 趙翻 (2012) 「日本語と中国語における謝罪表現の対象研究—家族と親友間の異なりに注目して」『東洋大学大学院紀要』49、東洋大学大学院:98-124.
- (2014) 「日本語と中国語の謝罪特徴—言動と家族観に注目して」『言語文化学会論集』43、言語文化学会:19-37.
- 彭国躍 (2003) 「中国語の謝罪発話行為の研究—“道歉” のプロトタイプ」『語用論研究』5、日本語用論学会:1-16.
- (2005) 「中国語の謝罪発話行為のコンテキスト制約—大学生の言語意識調査に基づいて」『中国語研究・改篇』24 早稲田大学文学部、好文出版:200-212.
- 陶琳 (2007) 「中国語における謝罪表現の意味類型構造について」『人間社会環境研究』14、金沢大学:19-38.
- 关英明 (2014) <致歉语“对不起”的言语行为类型>《北方论丛》245、哈尔滨师范大学:67-70.
- 石楠楠、李柏令 (2015) <汉语道歉语情景分布实证研究>《现代语文》 屈服师范大学:109-112.